

## 中国：ニードルコークス（NC）近況

### 概況

中国聯合鋼鉄ネットの調査研究統計によれば、サンプリング対象とした全中国の91箇所の電炉鉄鋼企業の内、稼働している電炉の割合は2018年12月末から1月中旬にかけて、70%から65%に徐々に下がり、旧正月直前で30%台まで落ち込み、現在は1月中旬のレベルに戻りつつある。

2018年秋期から今まで、中国政府の環境対策で、错峰生産<sup>(注)</sup>を行い、転炉やコークス炉の運転が制限されてきた。3月に入り、操業が回復しているが、鉄鋼の価格は下がり続けているので、利潤が少ないと思われる。

このような状況の中で、現在、黒鉛電極は在庫があるため、しばらくは価格が低めに推移すると予想されている。

一方、NC市場全体は2019年旧正月以降（2月10日以降）安定している。各メーカーの見積価格は2.5万元～2.8万元（41.5～46.5万円/トン、1元=16.6円で換算）である。

石炭系NC価格は2.4～2.7万元/トン（39.9～44.9万円/トン）、石油系NC価格は2.6万元～2.8万元/トン（43.2～46.5万円/トン）、生コークスは1.4万元/トン（23.3万円/トン）であり、輸入NCは3,500～4,200ドル/トン（39.0～51.3万円/トン、1ドル=111.6円で換算）、生コークスは1,200～2,250ドル/トン（13.4～25.1万円/トン）である。

### 主な企業の状況

1. **錦州石化**は品質管理の影響を受け、生産が制限されている。1月に4,000トンを生産し、旧正月前（2月5日前）の在庫に支えられたことで、現在出荷は安定している。2月に入ると、品質管理及び取引が低迷することの影響が続くと予想し、生産量は2,000トンに縮小される模様。
2. **開炭熱能**は6万トンの生産能力に拡大したあと、2019年も安定生産できると予測している。1月に生産できたNCはすべて内部消化し、国内にあるリチウムイオン二次電池負極材料製造企業に2,200トンの生コークスを提供した。
3. **山東益大**はロータリーキルン仮焼装置の試運転ができ、現在、正常運転している。各

指数が安定し、真比重は約 2.14 で、硫黄含有量は約 0.45 で、タップ密度は約 0.87 で、強度及び粒径も安定している。

4. **山東京陽**、今年の第 4 四半期に 7 万トンの生産能力拡大プロジェクトを完了する予定で、1月に NC を 6,400 トン生産し（輸出の 2,000 トンも含む）、生コークスを 1,000 トン生産した。旧正月休暇中も NC の出荷は順調で、在庫は増えていない。
5. **方大シーケム**は 1 月から生産が安定している。1月に 5,500 トンの NC を生産し、2月の生産量は 5,000 トンである。内部供給に余裕ができれば、外部供給も考えられる。

#### 6. **Conoco Phillips**

Phillips66 の輸出価格は 2018 年 6 月までは 2,500 ドル/トン（27.9 万円/トン）であったが、同 7 月以降は 3,400 ドル/トン（37.9 万円/トン）に上げていた。2019 年 1～6 月は、黒鉛電極用 NC：ポール材用は 4,200 ドル/トン（46.9 万円/トン）で、ニップル材用は 4,600 ドル/トン（51.3 万円/トン）；負極材料用 NC 価格は 1,200～1,400 ドル/トン（13.4～15.6 万円/トン）とさらに引き上げる。（以上全ては中国向け CIF 価格）

ICC の統計によれば、2018 年中国 NC 総輸入量は 22 万トンで、Phillips66 が 14.8 万トンで、67.3%を占めている。その内、黒鉛電極市場への割当量は僅か 3.8 万トンで、約 25.7%を占めており、負極材用の割当が多いと思われる。

中国 ICC、中聯鋼等の情報より  
2019 年 3 月

注：中国北部で行われる政府の生産規制で、冬期暖房時期に工場の稼働率を下げ、暖房時期の終了とともに稼働率を上げていく生産方式。